

## マネージメント情報

※アメリカの酪農場の変化 … Beef-on-Dairy (Beef-on-Farm)

鷲山さんとのメールでのやり取りから

2週間ほど前にアメリカ在住の Washiyama Consulting Services の鷲山さんとのメールのやり取りを紹介します。

※キーワードを太字斜体にしてあります。

「酪農における**育成費用**は非常に大きなものと言われていましてこの**効率化**は**マスト**になると思います。一つの方法が IVF 含めた ET なのでしょうね。

ご存じの通り、**ゲノム**を使っているこちらの牧場ではすでに**ドナー牛**、**授精される牛**、そして、**レシピエント**というように仕事を割り当てるようになっていきますし、子供を残せない牛には子牛の価値が上がるアンガスをつけています。育成費用を削減するために**ゲノム**で**足切り**をして残す牛を決めています。」  
今回みなさんに考えていただきたいことは**ゲノム検査**を実施するという事についてです。農場の個体（遺伝）能力の順位をつける客観的な方法は**ゲノム検査**になります。前回のこの欄で紹介しました **Beef-on-Dairy** も**ゲノム検査**が基本になります。血統情報や自分の経験で判断する方法では正確な判断はできません。

現在、乳牛の**ゲノム検査**を実施する方法はアメリカに検体を送ることになります。

窓口は ALTA JAPAN 経由で Neogen に出す方法と Zoetis JP・野澤組経由で Zoetis US に出す二通りになります。検査項目にもよりますが1頭当たりの検査料金は10,000円前後です。10,000円で正確な診断が可能になるのであれば、十分にその価値はあると私は考えます。

